

ひまわり。

第10号

大阪府立今宮高等学校 1学年通信
〒556-0013 大阪市浪速区戎本町2-7-39
☎ 06(6641)2612
FAX 06(6645)7608
HP <http://www.osaka-c.ed.jp/imamiya/>

■□第2中間考査を終えて各教科からの講評です。

英語科

■英語R

第二中間考査のみの平均点は60.6点で、範囲が広がったわりには、そう悪くはない点数です。しかし最高得点は93点、90点代はたった5人と、上位層にはもう少し頑張っただけです。欠点者は21人いました。成績表には第一中間と平均した仮評点(平均66.5点)が載っているのですが、ギリギリセーフだった人もいかもしれませんが、入学したての緊張感が弛んできている人は要注意です。10月の期末考査後、さらに平均を出し、平常点を加味して、最終的にはだいたい60点~62点ぐらいの評点に調整しますので、今回の仮評点が欠点でなくても45点以下の人は、今後かなり頑張ってください。

内容的には文法事項がうろ覚えで、応用がきかない人が多いようです。単語や熟語も量が増えてくるとテスト前だけの勉強では覚えきれません。毎回きちんと予習、復習を欠かさず、授業をしっかり消化し、身につけていく勉強態度を養ってください。

夏休みの読み物課題「パーティーラインミステリー」は是非頑張って自力で最後まで読みとおしてください。長編を一つ英語で読み切ることで、読解力がずいぶんアップします。そこに出てきた単語も話の筋とともに記憶に残りやすいのです。

もし、もう読んでしまった、とか、休み中にもっと他のもの読んでみたいという人がいれば、英語科職員室まで来てください。他にも面白い英語の物語本がたくさんありますので貸してあげます。



■英語G 第2中間考査の欠点は43名

問題Aの助動詞の正答率はわずか43.98%、問題E、Fの受動態の正答率は46.88%でした。次回の宿題実力考査に

同じ問題を入れますので、しっかり復習して覚えてください。

1. 次の文型 SVOC は4月の宿題実力考査以来、毎回出題しているにもかかわらず理解されていません。

Sam finds it easy to make friends.

S V O C O 真の目的語

サムは友人をつくることは簡単だと思っている。

2. 「だと言われている」の書き換えも正答率が低いです。

It is said that she is an actress.

=She is said to be an actress.

(注意) 今回の英語Gの成績は、第1、第2中間考査とForest暗唱例文テストの点で算出しました。

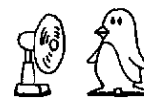
国語科

■現代文

内容がわかっているのに、答え方が適切でないために得点につながっていない人が多い。

例えば、「説明しなさい。」という問いでは、単語や短い言葉で答えていて説明になっていない人が多かった。また、「一単語で抜き出せ。」というような指示があるのに、二語以上を抜き出してしまふようなことである。「暇を出す。」の意味を問われているのに、「暇を出される。」の意味を答えていた人も多かった。

何を問われているのか、問題文をよく読むことを心掛けよう。



■古典

「口語訳せよ。」というような設問では、必ず文法的に重要な箇所があるはずなので、文の構造を理解したうえで口語訳をするように心掛けよう。特に助動詞は、接続・意味・活用をよく覚えておくこと。助動詞は、文章の意味を決定する大切な部分である。

漢文は、返り点を確実につけられるようにしておくこ

と。再読文字は、必ず読めるようにしておくこと。特に二回目に読む部分(漢字の左側の読み)を忘れないようにしておこう。書き下し文に改める場合は、白文では漢字であっても平仮名に改めなければならないところには、注意を払おう。

数学科

■数学I

配点20点の最大値・最小値の問題は授業でも繰り返し演習を行った問題なので、全員正解してほしかった。その他、平行移動や対称移動、二次関数の決定の問題など教科書や問題集で授業中に取り扱った問題を出題した。基礎的なことをしっかり理解し毎日コツコツ、問題演習に取り組んだ生徒は、数学が苦手と思っていた人でも50~60点は取れているように思います。



また、全体的に感じるのは「授業中の集中力」が徐々に低下してきているように感じます。数学は1回1回の授業が大切。「よくわからないから・・・」と最初から諦めたりせず、その時間のうちに理解できるように気持ちを集中させましょう。どうしてもわからなければ授業が終わってから質問に行きましょう。提出物はクラスによって大きく提出率が違ってきています。ほとんど全員、提出するクラスと60~70%の提出率で、提出物を出さない人が固定化されているクラスがあります。各自がルーズな方向に流されないように、きっちりやるべきことがやるべきときにできるようにしておきましょう。

■数学A

今回のテストでは、4STEPでよく質問に来た問題を多く出題したのですが、第一中間と比べて10点近く平均点が下がりました。前回の講評時にも書いたことですが、数学はなんとなくでは解けません。解答に至るまでの考え

方がしっかりしていなければ答えまではたどりつかないのです。この夏休みで、大切なポイントは必ず押さえておきましょう。たとえば、順列と組合せの違いは何か、「互いに排反」とはどのような状況か、などです。

さて、その一方で良かった点もあります。それは、答案に式だけでなく説明文も書けるようになってきたことです。解答は他人に伝わってこそ…ですよ。相手に伝える意思をもって解答を書くように心がけましょう。

理科

■理科総合A

物質をつくる原子の種類と構造、そして、それらがどのように結びついて物質がつくられているかを学びました。おもな元素の周期表など、まず覚えることを確実にして、イオン結合や共有結合等の結合の仕方について正確に理解することが求められました。電子式や構造式は、これからはすらすらと書けるようにしておくことが大切です。

秋からは、さまざまな化学反応について定量的な扱いをするようになります。週2回の授業を受けるだけでは十分に理解しにくくなります。復習を中心に自主的な学習を重ねていくことが一層強く求められます。夏休み中に今まで学習した内容を完璧に理解しておきましょう。

社会科

■現代社会

第2中間考査は、前回より少し難しくしました。とたんに、平均点が7点ほど下がりました。

特に、前回より5点以上点数の下がった人は要注意です。『気持ちがたるんでいる』『何とかかなる』『授業に集中していない』『眠気に勝てない』また、『提出物や宿題などもいい加減になっていませんか』『学校に少し慣れてきたことで、自分に甘えていませんか、周囲に流されていませんか』などなど。理由はそれぞれあると思います。自分の心の中に問いかけて、大いに反省をしてください。入学当初の気持ちを思い出して、夏休み以降の検討を期待します。

また、授業の内容が分からなくなったら、遠慮なく担当の先生に聞きに行きましょう。受け身の気持ちで授業を受けていても、前には進みません。



輝け個性！～今宮高校での思い出①～

木村康子

現在、今宮高校のスローガンは「磨け知性！輝け個性！」ですが、私が今宮に入学した頃は「輝け個性！」だけでした。(と、私は記憶しています。)そして、授業に来る多くの先生が、「個性って何?」「個性はどうやったら磨けると思う?」と問いかけてきていました。

入学した頃の私は、この問いに対して明確な答えを持っていませんでした。というよりも、個性が何か分からず、自分の個性が何かも分からず、自分はこんな状態で今高生と言えるのか…と悩んでいたくらいです。それくらい、「今高生＝個性が輝いている」というイメージが強かったです。

さて、そんな私ですが、1年が経つ頃には、なんとなく個性の正体が分かってきました。それを教えてくれたのは、クラスメイトや所属していた吹奏楽部の仲間でした。

化学がとにかく好きで、元素記号をすべて覚えた子がいました。大好きな歌手の曲が昼休みに流れただけで涙する子がいました。39人とは違う意見を堂々と発言できる子がいました。仲間のことを思って、本気で叱ってくれる子がいました。休日のたびに人生について語

り合う子がいました。見事なまでに遠足を企画した子がいました。バレンタインの日、ホールケーキを焼いてきた子がいました。似ていないものまねを、似てると言って延々と披露してくれる子がいました。部活の時間になると人が変わったかのように厳しくなる子がいました。

みんな、何かに熱中し、それを貫きとおしていました。
みんな、自分を偽らず、「自分らしく」生きていました。
それと同時に、みんな、仲間の「その人らしさ」を認めていました。

この「他者を認める」ことは、個性が輝くために必要不可欠な要素だと、私は思っています。なぜならば、自分で光らせた個性を、何倍にもまばゆく輝かせてくれるのは、他者を認める心を持った仲間だからです。

今、皆さんの個性輝いていますか?
そして、仲間の個性を輝かせていますか?
そもそも、個性って何だと思えますか?



いよいよ、夏休みが始まります。夏休みが明けて、皆さんの個性が今よりも何倍もまぶしく輝いていることを期待しています。

輝け！15期生☆

■「ひまわり。6号」はいずこへ? (お詫び)

明日からようやく夏休み。入学してからいろいろと盛り沢山で、この4か月が大変長かったように感じます。「ひまわり。」も10号になりました。ところが、どこを探しても6号が見当たりません。うーん、学年の先生みんなも「ないなー」。というか、そもそも内容の記憶が「ない」。パソコンのフォルダには「6号」の表題と枠だけのファイルが1つあるだけ。どうやら枠だけ作ってそのままになってしまっていたようです。

「幻の6号」ということで、そっとしておくことにしました(すみません)。



■4か月を振り返る

入学したばかりの頃を覚えていますか。本校の校訓「誠実剛毅」「和親協同」のまず「誠実であること」から始めなさいと言いました。「誠実」とはどういう心か、というのは、君たちが携帯している生徒手帳8ページに載っています。それは「自ら欺くことなく、内省してやさしい心がない」ことであり、また、「内外、表裏、明

暗によって行動を変え、軽浮(今で言うチャラける)、傲慢、いたずらに外貌を装飾する、虚栄を張るようなことは、この精神に反する」と書かれています。



家族や先生、クラスやクラブの仲間に対して誠実でいましたか。そして、自分自身の行動に対しても誠実であったと言えますか。

心が穏やかでいること、そして、今を懸命に生きること。大人になっても難しいことかもしれません。時には怠けてしまった日があってもいいでしょう。

頑張る気力がでない日があってもいいでしょう。誠実でいることは、心の自由を拘束するものではありません。調子が悪い時はゆっくり身体と心を休ませましょう。元気であることが一番大切です。そして、再び力が湧いてくるのを確かめてから歩きだせばいいのです。



夏休み明けからは、次の「剛毅」に生きることをテーマにしようと思っています。まずは、夏休みの目標を立て、暑さに負けず、明日から満足のいく素晴らしい夏休みにしてみましょ。